

（案）

ブタクロール 農薬蜜蜂影響評価書

2023年5月26日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害の範囲及び使用方法	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	7
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	7
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	8
3. 花粉・花蜜残留試験	10
4. 蜂群への影響試験	10
III. 毒性指標	11
1. 毒性試験の結果概要	11
2. 毒性指標値	11
3. 毒性の強さから付される注意事項	11
IV. 暴露量の推計	11
V. 評価結果	12
評価資料	12
評価資料（公表文献）	12

<経緯>

令和 4 年（2022年）	9 月 1 2 日	農業資材審議会への諮問
令和 4 年（2022年）	1 2 月 5 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会（第 7 回）
令和 5 年（2023年）	2 月 6 日	国民からの意見・情報の募集
	から 3 月 7 日	
令和 5 年（2023年）	5 月 2 6 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会（第 9 回）

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 7 回）

（委員）

五箇 公一

與語 靖洋

（専門委員）

稲生 圭哉

永井 孝志

中村 純

横井 智之

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 9 回）

（委員）

五箇 公一

與語 靖洋

（臨時委員）

山本 幸洋

（専門委員）

稲生 圭哉

永井 孝志

中村 純

横井 智之

ブタクロール

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

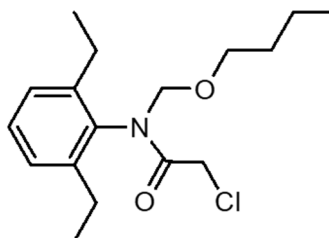
- | | |
|-----------|---|
| 1.1 申請者 | 日産化学株式会社 |
| 1.2 登録名 | ブタクロール
<i>N</i> -ブトキシメチル-2-クロロ-2',6'-ジエチルアセトアニリド |
| 1.3 一般名 | butachlor (ISO 名) |
| 1.4 化学名 | |
| IUPAC名 : | <i>N</i> -butoxymethyl-2-chloro-2',6'-diethylacetanilide |
| CAS名 : | <i>N</i> -(butoxymethyl)-2-chloro- <i>N</i> -(2,6-diethylphenyl)acetamide |
| 1.5 コード番号 | CP-53619 |

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式

C₁₇H₂₆ClNO₂

構造式



分子量

311.9

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
融点			99.4	OECD 102 凝固点法	< -25℃
沸点			99.4	OECD 103 沸点上昇法	226℃ (2133Pa) で分解
密度			99.4	OECD 109 比重瓶法	1.07 g/cm ³ (20℃)
蒸気圧			記載なし	EPA CG1600 ガス飽和法	2.5 × 10 ⁻⁴ Pa (25℃)
熱安定性			99.4	OECD 113 DSC法	150℃まで安定
溶解度	水		99.4	OECD 105 フラスコ法	16 mg/L (20℃)
	有機溶媒	エタノール	99.4	OECD 105 フラスコ法	>1000 g/L (20℃)
		キシレン			
		酢酸エチル			
		アセトン:			
		n-ヘプタン			
		メタノール			
		ヘキサン			
		ジクロロメタン			
	トルエン				
解離定数		—	—	測定不能(水に難溶のため)	
n-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		記載なし	HPLC法	4.42 (25℃)	
加水分解性		99及び96.4	1978年EPAガイドライン案	4週間安定 (43~44℃、pH3、6及び9)	
水中光分解性		99.4	12農産第8147号	半減期(滅菌蒸留水) 48日 (25℃、427~428 W/m ² 、300~800 nm)	

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果
	>98		半減期(蒸留水) 17.2日 (25°C、425 W/m ² 、300~800 nm) 半減期(河川水) 15.4日 (25°C、425 W/m ² 、300~800 nm)
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル	記載なし	極大吸収波長 (nm)	モル吸光係数 ϵ
		エタノール	
		204	18000
試験項目	試験方法		試験結果
土壌吸着係数	OECD106		$K_{\text{ads}}^{\text{Foc}} = 1330 \sim 4429$ (4種類の土壌)
土壌残留性	記載なし	粒剤、水田土壌：半減期 約5日または約9日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)	
		粒剤(ジャンボ剤)、水田土壌：半減期 約3日または約12日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)	

3. 申請に係る情報

アジア諸国（韓国、インド等）及び中・南米諸国（アルゼンチン、ブラジル等）で登録されている。

4. 作用機作

ブタクロールは環境中若しくは植物体中で酸化され、その酸化体が、植物のワックス層（クチクラ）などの構造を構成する超長鎖脂肪酸を合成する超長鎖脂肪酸合成酵素（VLCFAE）を作用点として活性を示し、この合成が阻害された植物体では形態を維持することができなくなり枯死に至る（HRAC：15[※]）。

※参照：<https://www.hracglobal.com/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（別添参照）

- ・ マーシェット乳剤
（ブタクロール 32.0%乳剤）
- ・ アークエース粒剤
（ブタクロール 2.5%・ACN4.5%粒剤）
- ・ クミアイサキドリ EW 及びシンウチ EW
（ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤）
- ・ マーシェットジャンボ
（ブタクロール 20.0%粒剤）
- ・ マーシェット 1 キロ粒剤
（ブタクロール 10.0%粒剤）
- ・ クサカリン粒剤 35
（ピラゾレート 8.0%・ブタクロール 3.5%粒剤）
- ・ クサカリン粒剤 25
（ピラゾレート 6.0%・ブタクロール 2.5%粒剤）
- ・ クミアイサキドリ 1 キロ粒剤及びシンウチ 1 キロ粒剤
（ブタクロール 5.0%・ペントキサゾン 1.5%粒剤）
- ・ マーシェット粒剤 5
（ブタクロール 5.0%粒剤）
- ・ アークエース 1 キロ粒剤
（ブタクロール 7.5%・ACN9.0%粒剤）
- ・ デルカット乳剤
（オキサジアゾン 8.0%・ブタクロール 12.0%乳剤）
- ・ イネゼット EW
（ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤）
- ・ クラール EW
（ジメタメトリン 0.50%・ブタクロール 20.0%乳剤）
- ・ クラール 1 キロ粒剤
（ジメタメトリン 0.30%・ブタクロール 7.5%粒剤）
- ・ アネシス 1 キロ粒剤
（ピラズスルフロンエチル 0.30%・ブタクロール 10.0%・ベンゾビシクロン
2.0%粒剤）
- ・ イネサポート B1 キロ粒剤
（ブタクロール 10.0%・フロルピラウキシフェンベンジル 1.5%粒剤）

Ⅱ. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

ブタクロールのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

*（参考）公表文献の検索結果

（生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野）

データベース名: Web of Science (Core Collection)

検索対象期間: 2006年4月1日から2021年3月31日



2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >100 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（2001 年）

被験物質	原体	
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10 頭 / 区	
準拠ガイドライン	EPPO170	
試験期間	48 h	
投与溶媒(投与液量)	アセトン(1 µL)	
暴露量 (設定濃度に基づく有効 成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	1/50 (2.0%)	13/50
LD ₅₀ (µg ai /bee)	>100	
観察された行動異常	運動障害、無気力等	

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >90 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（2001 年）

被験物質	原体	
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10 頭 / 区	
準拠ガイドライン	EPPO170	
試験期間	48 h	
投与溶液 (投与液量)	50%ショ糖溶液(200 µL/区)	
助剤(濃度%)	アセトン(5 %)	
暴露量 (設定量に基づく有効 成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	90
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0%)	2/50
LD ₅₀ (µg ai /bee)	>90	
観察された行動異常	なし	

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

Ⅲ. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 4 に示す。

表 4：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エンドポイント	試験1
成虫 単回接触毒性	48h LD ₅₀	>100 µg ai/bee
成虫 単回経口毒性		>90 µg ai/bee

2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、48h LD₅₀ 値 (>100 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫単回経口毒性については、48h LD₅₀ 値 (>90 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 90 µg ai/bee とした。

ブタクロールのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表 5 に示す。

表 5：ブタクロールのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100
	単回経口毒性		90

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

Ⅳ. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の単回接触毒性（単回接触毒性試験の LD₅₀ 値）が 11 µg/bee 以上であること、及び成虫の単回接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ 値：>90 µg ai/bee）であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

ブタクロールは、申請された適用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
1	2001	Laboratory bioassays to determine acute oral and contact toxicity of butachlor technical to the honeybee, <i>Apis mellifera</i> Mambo-Tox Ltd. Report No: MON-01-8 GLP、未公表	日産化学 (株)
2	2022	公表文献 有効成分名：ブタクロール 公表	日産化学 (株)

評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（ブタクロール）

目 次

1. 登録番号 20131：マーシェット乳剤（ブタクロール 32.0%乳剤）	2
2. 登録番号 20603：アークエース粒剤（ブタクロール 2.5%・ACN4.5%粒剤）	3
3. 登録番号 20822：クミアイサキドリEW、 登録番号 22742：シンウチEW （ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤）	4
4. 登録番号 20825：マーシェットジャンボ（ブタクロール 20.0%粒剤）	5
5. 登録番号 20826：マーシェット1キロ粒剤（ブタクロール 10.0%粒剤）	6
6. 登録番号 21065：クサカリン粒剤35（ピラゾレート 8.0%・ブタクロール 3.5%粒剤）	7
7. 登録番号 21066：クサカリン粒剤25（ピラゾレート 6.0%・ブタクロール 2.5%粒剤）	8
8. 登録番号 21403：クミアイサキドリ1キロ粒剤、 登録番号 22743：シンウチ1キロ粒剤 （ブタクロール 5.0%・ペントキサゾン 1.5%粒剤）	9
9. 登録番号 21459：マーシェット粒剤5（ブタクロール 5.0%粒剤）	10
10. 登録番号 21835：アークエース1キロ粒剤（ブタクロール 7.5%・ACN9.0%粒剤）	11
11. 登録番号 22430：デルカット乳剤（オキサジアゾン 8.0%・ブタクロール 12.0%乳剤）	12
12. 登録番号 23099：イネゼットEW（ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤）	13
13. 登録番号 23507：クラールEW（ジメタメトリン 0.50%・ブタクロール 20.0%乳剤）	14
14. 登録番号 23820：クラール1キロ粒剤 （ジメタメトリン 0.30%・ブタクロール 7.5%粒剤）	15
15. 登録番号 23987：アネシス1キロ粒剤 （ピラズスルフロンエチル 0.30%・ブタクロール 10.0%・ベンゾビシクロン 2.0%粒剤）	16
16. 登録番号 24384：イネサポートB1キロ粒剤 （ブタクロール 10.0%・フロルピラウキシフェンベンジル 1.5%粒剤）	17

1. 登録番号 20131 : マーシエット乳剤 (ブタクロール 32.0%乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ	植代直後 (移植 7 日前まで) 又は 移植後 1 日～ ルビエ 1 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	300~500 mL/10 a	—	1 回	原液湛水散布	2 回以内
直播水稻	一年生雑草	乾田直播のは種直後～ 稲出芽前 (雑草発生前) (入水 15 日前まで)	1000~1500 mL/10 a	通常散布 50~100 L/10 a 少量散布		全面土壌散布	
	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	乾田直播の入水 10~2 日前	500 mL/10 a	25~50 L/10 a			

2. 登録番号 20603 : アークエース粒剤 (ブタクロール 2.5%・ACN4.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数	ACNを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	2~3 kg/10 a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回以内	3回以内
		移植直後~ ノビエ1葉期 ただし、移植後30日 まで	2 kg/10 a		湛水散布		
		移植直後~ ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日 まで	3 kg/10 a				

3. 登録番号 20822 : クミアイサキドリ EW、
登録番号 22742 : シンウチ EW
(ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及びマツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ コウキヤガラ	植代後~移植前 7 日 または 移植直後~ノビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布
		移植時			田植同時散布機で施用
		植代時 (移植 7 日前まで)			植代時に原液のまま散布し混和する
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	湛水直播の代かき時 (は種 7 日前まで)	300 mL/10 a		代かき時に原液のまま散布し混和する
		湛水直播の代かき後 ~は種前 7 日			原液湛水散布

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

4. 登録番号 20825 : マーシェットジャンボ (ブタクロール 20.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	植代後~移植前 7 日 または移植後 1 日~ エ 1 葉期 ただし、移植 後 30 日まで	小包装(パ ック)10 個 (500g)/10a	1 回	水田に小包装 (パック)のま ま投げ入れ る。	2 回以内

5. 登録番号 20826 : マーシェット 1 キロ粒剤 (ブタクロール 10.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布 機で施用	2 回以内
		植代後~移植前 7 日 又は移植直後~ ¹ 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布	

6. 登録番号 21065 : クサカリン粒剤 3 5 (ピラゾレート 8.0%・ブタクロール 3.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ	移植後 1~10 日 (ノビエ 1.5 葉期 まで)	砂壤土 ~埴土	3~4 kg/10 a (但し 砂壤土 は 3 kg)	1 回	湛水散布	北海道 東北 北陸
		移植後 1~10 日 (ノビエ 2.0 葉期 まで)		3 kg/10a			関東以西の 普通期 及び早期栽 培地帯

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ブタクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

7. 登録番号 21066：クサカリン粒剤 25（ピラゾレート 6.0%・ブタクロール 2.5%粒剤）

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ オモダカ (関東・東山・東海)	移植直後~移植 後 10 日(但し九 州の普通期は 移植後 7 日ま で)(ノビエ 1.5 葉 期まで)	砂壤土 ~埴土	3~4 kg/10 a	1 回	湛水散布	全域の 普通期 及び 早期栽 培地帯

ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	ブタクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

8. 登録番号 21403 : クミアイサキドリ 1 キロ粒剤、
登録番号 22743 : シンウチ 1 キロ粒剤
(ブタクロール 5.0%・ペントキサゾン 1.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ コウキヤガラ	植代後~移植前 7 日 または 移植直後~ ¹ / ₂ 葉期 ただし、移植後 30 日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布
		移植時			田植同時散布機 で施用

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

9. 登録番号 21459 : マーシエット粒剤 5 (ブタクロール 5.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	植代後～ 移植 7 日前まで	2~3 kg/10 a	1 回	湛水散布	2 回以内
		移植後 3 日～ ルビエ 1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	3 kg/10 a			

10. 登録番号 21835 : アークエース 1 キロ粒剤 (ブタクロール 7.5%・ACN9.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数	ACNを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ アオミドロ・ 藻類による 表層はく離	植代後~移植7日前 または 移植直後~ ¹⁰ 1.5葉期 ただし、移植後30日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布 又は 無人航空機 による 散布	2 回以内	3 回以内
		移植時			田植同時 散布機で施用		

1 1. 登録番号 22430:デルカット乳剤 (オキサジアゾン 8.0%・ブタクロール 12.0%乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	オキサジアゾンを含む農薬の総使用回数	ブタクロールを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ コウキヤガラ	植代時 (移植 4 日前まで)	500 mL/10 a	1 回	植代時に原液のまま散布し混和する。 または、 植代直後原液のまま散布し、ただちに整地板で均平作業を行う。	1 回	2 回以内
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ		250~350 mL/10 a (少量散布)				
いぐさ	水田一年生雑草 スズメノテッポウ	植付後~ スズメノテッポウ 3 葉期 または ノビエ 1.5 葉期	300~500 mL/10 a		原液湛水散布		1 回

12. 登録番号 23099:イネゼットEW (ブタクロール 12.0%・ペントキサゾン 4.0%乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ コウキヤガラ	植代後~移植前 7 日 または 移植直後~ ¹ / ₂ 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布
		移植時			田植同時散布機で施用
		植代時 (移植 7 日前まで)			植代時に原液のまま散布し混和する
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	湛水直播の代かき時 (は種 7 日前まで)	300 mL/10 a		代かき時に原液のまま散布し混和する
		湛水直播の代かき後 ~は種前 7 日		原液湛水散布	

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

1 3. 登録番号 23507 : クラールEW (ジメタメトリン 0.50%・ブタクロール 20.0%乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ アオミドロ・藻類による表層はく離	植代後~移植 7 日前 又は 移植直後~ ^ビ エ 1.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水 散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ブタクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

1 4. 登録番号 23820 : クラール 1 キロ粒剤

(ジメタメトリン 0.30%・ブタクロール 7.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		植代後~移植 7 日前 又は 移植直後~ ルベ 1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			湛水散布又は 無人航空機 による散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ブタクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

1 5. 登録番号 23987 : アネシス 1 キロ粒剤

(ピラゾスルフロンエチル 0.30%・ブタクロール 10.0%・ベンゾビシクロン 2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で 施用
		移植直後~ ¹ / ₁₀ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			湛水散布又は 無人航空機による 散布
直播 水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ ¹ / ₁₀ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	3 回以内

16. 登録番号 24384：イネサポート B 1 キロ粒剤

(ブタクロール 10.0%・フロルピラウキシフェンベンジル 1.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	一年生雑草及び ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ セリ	移植後 5 日～ ^{ビエ} 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	フロルピラウキシフェンベンジルを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内

「ブタクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）」に対する意見募集の結果について（案）

1. 意見募集の概要

（１）意見募集の対象農薬

ブタクロール

（２）意見募集の周知方法

関係資料を電子政府の総合窓口（e-Gov）に掲載

（３）意見募集期間

令和５年２月６日（月）～ 令和５年３月７日（火）

（４）意見提出方法

- ・ 電子政府の総合窓口（e-Gov）
- ・ 郵送

（５）意見提出先

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

2. 意見募集の結果

（１）御意見提出者数

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ 電子政府の総合窓口（e-Gov） | 1 通 |
| ・ 郵送 | 0 通 |

（２）御意見の延べ総数 1 件

(別紙)

「ブタクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）」に対する意見・情報の募集に寄せられた意見・情報の概要及びそれに対する考え方（案）

	御意見	御意見に対する考え方
1	LD50等の指標で検証していますが、半数が死に至る数字でいいのでしょうか？ ミツバチ等への影響を、このような机上の数値のみで判定するのは危険だと思われます。 より厳しい基準で検証すべきではないでしょうか？ 生態系に悪影響を及ぼしてから対処するのでは、遅すぎます。事前に安全を見ておくべきです。	提出が求められる農薬の蜜蜂への影響に関する試験成績は、蜜蜂の蜂群への影響評価試験成績を除き、試験成績の信頼性を確保するため、試験施設、その職員及び組織、試験実施の管理体制、内部調査体制及び試験データ等の保管管理について定めた農薬 GLP 基準に従って行われる試験によるものでなくてはなりません。 我が国の蜜蜂影響評価で用いる毒性指標（実施した蜜蜂への毒性試験により影響が認められる量）は、OECD ガイドラインに基づき、単回接触毒性試験及び単回経口毒性試験においては、原則として成虫は 48 時間後の LD₅₀（半数致死量）値、幼虫は 72 時間後の LD₅₀ 値を、反復経口試験においては、原則として 10 日後の LDD₅₀（半数致死摂取量）値を評価に用いることとしています。